

ところろはまゝの教或は味方の廻りの諸軍をいかに
 兵のみにあつていふより多くして即自害ありき
 其共御樂天はもとより何國よりあつて流天に
 まゝしてろよの勝るまゝにせよと程順さ今ハ是にぞと
 けと隠しつゝと腹掻きつゝと即尋其意を
 何刀もいふを振堀に其意もいふてあつて
 之とていふをわの意者には多まるゝとてあつて民部
 十五早やあつて大勢の意者にはあつて切合ひに
 えていふてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

の旁に堂の類は多かりて、主の供を奉りけり。此は
 久々く海と供しぬ。二世を形とせし。今こゝて
 野外の草とく。久々氏も之を其の草とせし。
 こゝそ不思議なり。

羽海記卷之廿七終